

1 基本項目	事務事業名				市民スポーツ推進事業		担当部署	課等名	生涯学習・スポーツ課		
	予算事業名				市民スポーツ推進事業			係名	スポーツ係		
	事務区分				自治事務			電話番号	0765-23-1046		
	事業期間		開始年度	不明		終了年度	当面継続		会計	一般会計	
	総合計画	目標名	目標2. 未来につなぐまち					予算科目	款	教育費	
		政策名	政策09. いつまでも健やかなまちづくり						項	保健体育費	
		施策名	施策21. いきいきとしたライフスタイルの実現						目	保健体育総務費	
		基本事業名	基本事業21－1. 生涯スポーツ・レクリエーションの推進						総合計画主な事業		記載あり（評価対象）
	根拠法令							総合戦略との関連		関連なし	
	アウトソーシング導入状況		アウトソーシング導入済（業務委託）					集中プランとの関連		関連なし	

2 事業概要	事業概要	市民の生涯スポーツの普及・推進を図るための取組を行う。 ①スポーツ推進審議会の開催、②スポーツ推進委員の配置によるスポーツの実技指導や助言の実施（スポーツレクリエーション事業の実施）、③学校スポーツ施設の開放事業（施設管理を含む。）、④登山道の整備	
	対象	市民、施設等	
	手段（活動指標）	・学校スポーツ施設の開放施設数	
	意図（成果指標）	・学校スポーツ施設開放事業利用者数	

3 指標	活動指標名・成果指標名		単位	R3年度	R4年度	R5年度			R6年度
				実績	実績	計画	実績	達成率	計画
	活動	① 学校スポーツ施設の開放施設数	施設	19	21	21	21	100.0%	21
		②							
	成果	① 週1回以上スポーツをする人の割合	%	48.1	調査未実施	50.0	調査未実施		50.0
		② 学校スポーツ施設開放事業利用者数	人	48,214	55,403	48,000	59,693	124.4%	50,000

4 コスト情報	区 分		単位	R3年度	R4年度	R5年度			R6年度
				決算額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
	事業費内訳	事業費合計 (A)	円	10,668,358	9,342,146	10,478,800	9,510,047	1.8%	10,812,000
		①国庫支出金	円						
		②県支出金	円	282,000	282,000	282,000	282,000	0.0%	282,000
		③地方債	円						
		④その他（使用料、雑入等）	円	2,033,131	2,366,094	2,541,000	2,169,811	-8.3%	2,541,000
		⑤一般財源	円	8,353,227	6,694,052	7,655,800	7,058,236	5.4%	7,989,000
	人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人	3	4	4	4	0.0%	4
		②年間所要時間	時間	1,500	1,900	1,900	1,500	-21.1%	1,500
		③人件費（②×④ 3,956 円）(B)	円	5,934,000	7,516,400	7,516,400	5,934,000	-21.1%	5,934,000
	総 費 用 (A+B)		円	16,602,358	16,858,546	17,995,200	15,444,047	-8.4%	16,746,000

5 取組内容	令和5年度に取り組んだ事務事業の内容や事業費の主な内訳等	
	・スポーツ推進委員協議会の運営補助 ・派遣スポーツ主事による、スポーツ指導、県内の派遣主事との連携、市内小中学校との連絡調整 ・体育施設夜間開放の実施 ・登山道の整備委託、片貝山荘の運営	

評価の視点		R4評価	R5評価	評価結果の説明	個別評価の項目		個別評価の判定		
6 評 価	妥 当 性	A	A	特に問題なし	① 自治体関与の妥当性	1	妥当である		
					② 目的の妥当性	1	妥当である		
					③ 対象の妥当性	1	妥当である		
	有 効 性	A	A	特に問題なし	① 目標達成度	1	高い		
					② 類似事業の有無	1	なし		
					③ 上位施策への貢献度	1	高い		
	効 率 性	A	A	特に問題なし	① コスト効率	1	高い		
					② 実施主体の適正化	1	適正である		
					③ 負担割合の適正化	1	適正である		
	1 次 評 価	結果 (課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当		不要		
		今 後 の 方 針	○ 現状を維持	方 針 の 説 明 等	生涯スポーツ振興に係る根幹事業であることから、継続して実施していくことが必要と思われる。また、派遣スポーツ主事によるスポーツ指導は、市が推進するユニバーサルスポーツ（タグラグビー、ユニホック、ポッチャ）の普及向上にも寄与し、また、スポレク祭を充実するなど、生涯スポーツ推進に大きく寄与していると思われる。	2 次 評 価			
			事業の拡充						
事業の縮小									
統合等の検討									
	終了又は廃止・休止								

1 基本項目	事務事業名				室内温水プール建替推進事業	担当部署	課等名	生涯学習・スポーツ課	
	予算事業名				室内温水プール建替推進事業		係名	スポーツ係	
	事務区分				自治事務		電話番号	0765-23-1046	
	事業期間		開始年度	平成29年度	終了年度	当面継続	予算科目	会計	一般会計
	総合計画	目標名	目標2. 未来につなぐまち					款	教育費
		政策名	政策09. いつまでも健やかなまちづくり					項	保健体育費
		施策名	施策21. いきいきとしたライフスタイルの実現					目	体育施設費
		基本事業名	基本事業21－1. 生涯スポーツ・レクリエーションの推進					総合計画主な事業	
	根拠法令						総合戦略との関連		関連なし
アウトソーシング導入状況		アウトソーシング導入済（業務委託）				集中プランとの関連		関連あり（評価対象）	

2 事業概要	事業概要	魚津市の室内温水プールは、昭和54年3月の開設以来、約40年間気軽に親しめる施設として幅広く市民に利用されています。近年は、老朽化が進み、ボイラー等設備の故障や雨漏り等が相次いで発生し、快適に利用できる状態を保つのが困難な状況であり、その改修には多額の財政負担を伴います。平成26年7月に策定された「魚津市公共施設再編方針」では、温水プールは建替えることとしており、その設置場所と施設内容について検討を実施。R01年度は内閣府の交付金を活用し、PFI導入可能性調査を実施し、R02年度は整備手法等の検討、及び整備方針や整備スケジュールを決定する。
	対象	市民、管理施設（総合体育館室内温水プール）
	手段（活動指標）	たくさんの市民や事業者の意見を取り入れながら、費用的に効率的・効果的な新しい室内温水プールを造る。
	意図（成果指標）	新しい室内温水プールが完成し、多くの市民が利用している。

3 指標	活動指標名・成果指標名		単位	R3年度	R4年度	R5年度			R6年度
				実績	実績	計画	実績	達成率	計画
	活動	① 工事進捗割合（工事出来高）	%	-	-	5.3	5.2	98.1%	100.0
		②							
	成果	①							
		②							

4 コスト情報	区 分		単位	R3年度	R4年度	R5年度			R6年度
				決算額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
	事業費	事業費合計（A）	円	1,059,581	2,100,555	1,704,726,090	251,457,900	11871.0%	1,472,415,000
		①国庫支出金	円			19,657,000	19,657,000		194,366,000
		②県支出金	円						
		③地方債	円			208,600,000	208,600,000		1,178,800,000
		④その他（使用料、雑入等）	円						70,000,000
		⑤一般財源	円	1,059,581	2,100,555	1,476,469,090	23,200,900	1004.5%	29,249,000
	人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人	2	2	2	2	0.0%	2
		②年間所要時間	時間	1,400	1,400	1,400	1,600	14.3%	1,600
		③人件費（②×@ 3,956 円）（B）	円	5,538,400	5,538,400	5,538,400	6,329,600	14.3%	6,329,600
	総 費 用（A＋B）		円	6,597,981	7,638,955	1,710,264,490	257,787,500	3274.6%	1,478,744,600

5 取組内容	令和5年度に取り組んだ事務事業の内容や事業費の主な内訳等	
	（令和5年度） ・基本設計、実施設計 ・工事契約 ・先行工事（地下排水管の移設） ・工事監理業務委託契約 ・令和6年1月 建設工事着工	

6 評価	評価の視点	R4評価	R5評価	評価結果の説明	個別評価の項目		個別評価の判定	
	妥 当 性	A	A	特に問題なし	① 自治体関与の妥当性		1 妥当である	
					② 目的の妥当性		1 妥当である	
					③ 対象の妥当性		1 妥当である	
	有 効 性	A	A	特に問題なし	① 目標達成度		1 高い	
					② 類似事業の有無		1 なし	
					③ 上位施策への貢献度		1 高い	
	効 率 性	A	A	特に問題なし	① コスト効率		1 高い	
					② 実施主体の適正化		1 適正である	
					③ 負担割合の適正化		1 適正である	
	結果（課長総括）	A	A	現行どおり管理運営を行うことが適当	不要			
	1次評価	今後の方針	方針の説明等	公共施設再編方針に基づき、老朽化した温水プールの建替工事を行っており、令和6年度の早期に条例整理や管理方針を定めるとともに、監理者と連携しながら、令和7年度の供用開始に向け、令和6年度末の完成を目指す。	2次評価			

1 基本項目	事務事業名				老人クラブ事業	担当部署	課等名	社会福祉課				
	予算事業名				老人クラブ事業		係名	高齢福祉係				
	事務区分				自治事務		電話番号	0765-23-1007				
	事業期間				開始年度	昭和35年度以前	終了年度	当面継続	予算科目	会計	一般会計	
	総合計画	目標名				目標2. 未来につなぐまち				款	民生費	
		政策名				政策09. いつまでも健やかなまちづくり				項	社会福祉費	
		施策名				施策21. いきいきとしたライフスタイルの実現				目	老人のための明るいまち推進事業	
		基本事業名				基本事業21－2. 高齢者の社会参加の促進				総合計画主な事業		記載あり（評価対象）
	根拠法令								総合戦略との関連		関連なし	
	アウトソーシング導入状況				アウトソーシング導入済（業務委託）				集中プランとの関連		関連なし	

2 事業概要	事業概要	魚津市老人クラブ連合会及び単位老人クラブの活動を支援する。	
	対象	60歳以上で、単位老人クラブに加入する者	
	手段 （活動指標）	魚津市老人クラブ連合会へ健康づくり事業、ボランティア事業、世代交流事業等の各種事業を委託し、単位老人クラブに対してはボランティア活動・生きがいを高める活動・健康づくり活動などの事業実施のために助成金を交付。	
	意図 （成果指標）	単位老人クラブに加入する高齢者が健康を維持し、生きがいを見つけることができる。	

3 指標	活動指標名・成果指標名		単位	R3年度	R4年度	R5年度			R6年度
				実績	実績	計画	実績	達成率	計画
	活動	① 老人クラブ会員数	人	3,855	3,596	3,533	3,542	100.3%	3,355
		② 単位老人クラブ数	数	65	63	60	60	100.0%	58
	成果	① 加入率（加入者数/60歳以上人口）	%	24	23	23	22	95.7%	21
		②							

4 コスト情報	区 分		単位	R3年度	R4年度	R5年度			R6年度
				決算額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
	事業費内訳	事業費合計（A）	円	4,530,360	4,336,992	4,499,000	4,227,024	-2.5%	4,302,000
		①国庫支出金	円						
		②県支出金	円	2,460,000	2,386,000	2,484,000	2,290,000	-4.0%	2,298,000
		③地方債	円						
		④その他（使用料、雑入等）	円						
		⑤一般財源	円	2,070,360	1,950,992	2,015,000	1,937,024	-0.7%	2,004,000
	人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人	1	1	1	1	0.0%	1
		②年間所要時間	時間	300	400	400	400	0.0%	400
		③人件費（②×@ 3,956 円）（B）	円	1,186,800	1,582,400	1,582,400	1,582,400	0.0%	1,582,400
	総 費 用（A＋B）		円	5,717,160	5,919,392	6,081,400	5,809,424	-1.9%	5,884,400

5 取組内容	令和5年度に取り組んだ事務事業の内容や事業費の主な内訳等	
	〇魚津市老人クラブ連合会へ健康づくり事業、ボランティア事業、世代交流事業等の各種事業を委託した。 〇広報誌「老悠連」を年1回発行 〇単位老人クラブに対してボランティア活動・生きがいを高める活動・健康づくり活動などの事業実施のために助成金を交付した。	

6 評価	評価の視点	R4評価	R5評価	評価結果の説明	個別評価の項目		個別評価の判定
	妥 当 性	A	A	特に問題なし	① 自治体関与の妥当性	1	妥当である
					② 目的の妥当性	1	妥当である
					③ 対象の妥当性	1	妥当である
	有 効 性	B	A	目標達成度は設定にばらつきがあるため評価点への影響低い	① 目標達成度	2	目標どおり
					② 類似事業の有無	1	なし
					③ 上位施策への貢献度	1	高い
	効 率 性	A	A	特に問題なし	① コスト効率	1	高い
					② 実施主体の適正化	1	適正である
					③ 負担割合の適正化	1	適正である
	結果 （課長総括）	A	A	現行どおり補助することが適当	不要		
	1次評価	〇現状を維持 事業の拡充 事業の縮小 統合等の検討 終了又は廃止・休止	方針の説明等	高齢化率が上昇する一方で老人クラブの加入率が低下傾向にある。当該事業は高齢者の介護予防に大きく寄与していると思われることから、老人クラブ連合会と連携しながら、魅力ある老人クラブづくりを進め加入率の低下を防ぐ必要がある。	2次評価		

1 基本項目	事務事業名	高齢者生きがい事業				担当部署	課等名	社会福祉課
	予算事業名	高齢者生きがい事業					係名	高齢福祉係
	事務区分	自治事務					電話番号	0765-23-1007
	事業期間	開始年度	昭和60年以前	終了年度	当面継続	予算科目	会計	一般会計
	目標名	目標2. 未来につなぐまち					款	民生費
	政策名	政策09. いつまでも健やかなまちづくり					項	社会福祉費
	施策名	施策21. いきいきとしたライフスタイルの実現					目	老人のための明るいまち推進事業
	基本事業名	基本事業21－2. 高齢者の社会参加の促進				総合計画主な事業	記載あり（評価対象）	
	根拠法令					総合戦略との関連	関連なし	
	アウトソーシング導入状況	アウトソーシング導入済（指定管理者制度）				集中プランとの関連	関連なし	

2 事業概要	事業概要	高齢者が生きがいをもって積極的に地域活動に参加するための事業を行う。主な事業は、老人趣味の家管理、ねんりんピック等の全国大会参加への助成金の支給など。平成26年度からは、高齢者の生きがいづくりの拠点施設として、魚津市高齢者いきいきセンターを設置し、指定管理者制度における運営を開始した。						
	対象	おおむね60歳以上の元気高齢者						
	手段 （活動指標）	老人趣味の家の維持管理及び陶芸教室を開催し、成果発表の場の提供を行う。 魚津市高齢者いきいきセンターを運営し、高齢者の生きがいづくりの機会創出を図る。						
	意図 （成果指標）	高齢者の生きがい事業を実施することにより、高齢者が積極的に地域活動に参加し、住み慣れた地域で元気に暮らすことができる。						

3 指標	活動指標名・成果指標名		単位	R3年度	R4年度	R5年度			R6年度
				実績	実績	計画	実績	達成率	計画
	活動	① 陶芸教室活動日数	日	25	46	46	46	100.0%	46
		② 全国大会参加種目	件	0	4	5	5	100.0%	5
	成果	① 陶芸教室実施率	%	89	100	100	100	100.0%	100
		② 全国大会参加者数	人	0	7	10	12	120.0%	10

4 コスト情報	区 分		単位	R3年度	R4年度	R5年度			R6年度
				決算額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
	事業費 内訳	事業費合計 (A)	円	1, 129, 731	1, 186, 201	1, 499, 000	1, 300, 719	9. 7%	1, 520, 000
		①国庫支出金	円						
		②県支出金	円						
		③地方債	円						
		④その他（使用料、雑入等）	円	1, 600	1, 600	1, 000	1, 000	-37. 5%	1, 000
		⑤一般財源	円	1, 128, 131	1, 184, 601	1, 498, 000	1, 299, 719	9. 7%	1, 519, 000
	人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人	1	1	1	1	0. 0%	1
		②年間所要時間	時間	40	40	40	40	0. 0%	40
		③人件費（②×@ 3, 956 円）（B）	円	158, 240	158, 240	158, 240	158, 240	0. 0%	158, 240
	総 費 用（A＋B）		円	1, 287, 971	1, 344, 441	1, 657, 240	1, 458, 959	8. 5%	1, 678, 240

5 取組内容	令和5年度に取り組んだ事務事業の内容や事業費の主な内訳等							
	○老人趣味の家の維持管理、陶芸教室運営、成果発表の場の提供を行った。 ○指定管理者制度により魚津市高齢者いきいきセンターの運営を行った。							

評価の視点		R4評価	R5評価	評価結果の説明	個別評価の項目		個別評価の判定	
6 評 価	妥 当 性	A	A	特に問題なし	① 自治体関与の妥当性	1	妥当である	
					② 目的の妥当性	1	妥当である	
					③ 対象の妥当性	1	妥当である	
	有 効 性	B	B	有効性をさらに高めるため若干の改善が必要	① 目標達成度	2	目標どおり	
					② 類似事業の有無	1	なし	
					③ 上位施策への貢献度	2	普通	
	効 率 性	B	B	進め方等の改善が必要	① コスト効率	2	普通	
					② 実施主体の適正化	1	適正である	
					③ 負担割合の適正化	1	適正である	
1 次 評 価	結果 (課長総括)	B	B	事業の進め方・内容について改善の余地あり		不要		
	今後の方針	○ 現状を維持	方針の説明等	老人趣味の家は、R5で廃止し、R6から普通財産として老人クラブに無償貸与する予定である。 高齢者いきいきセンターは、利活用をさらに促すことも必要である。	2 次 評 価			
		事業の拡充						
		事業の縮小						
		統合等の検討						
	終了又は廃止・休止							

1 基本項目	事務事業名				就業機会確保事業	担当部署	課等名	社会福祉課				
	予算事業名				就業機会確保事業		係名	高齢福祉係				
	事務区分				自治事務		電話番号	0765-23-1007				
	事業期間				開始年度	昭和63年	終了年度	当面継続	予算科目	会計	一般会計	
	総合計画	目標名				目標2. 未来につなぐまち				款	民生費	
		政策名				政策09. いつまでも健やかなまちづくり				項	社会福祉費	
		施策名				施策21. いきいきとしたライフスタイルの実現				目	老人のための明るいまち推進事業	
		基本事業名				基本事業21－2. 高齢者の社会参加の促進				総合計画主な事業		記載あり（評価対象）
	根拠法令								総合戦略との関連		関連なし	
	アウトソーシング導入状況				アウトソーシング導入済（指定管理者制度）				集中プランとの関連		関連なし	

2 事業概要	事業概要	高齢者の就業支援を行うシルバー人材センターの活動に対して補助金を交付し、生きがいづくりや社会参加の促進を支援する。
	対象	おおむね60歳以上の元気高齢者
	手段 （活動指標）	シルバー人材センターの就業活動に対する補助金
	意図 （成果指標）	高齢者が労働・作業に従事することにより、生きがいをみだし、健康な状態を保つことができる。

3 指標	活動指標名・成果指標名		単位	R3年度	R4年度	R5年度			R6年度
				実績	実績	計画	実績	達成率	計画
	活動	① 補助金額	千円	9,950	9,950	9,950	9,950	100.0%	9,950
		② 補助金交付額	円	9,950	9,950	9,950	9,950	100.0%	9,950
	成果	① シルバー人材センター登録者数（3月末現在）	人	577	553	560	566	101.1%	560
		②							

4 コスト情報	区 分		単位	R3年度	R4年度	R5年度			R6年度
				決算額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
	事業費	事業費合計（A）	円	9,950,000	9,950,000	9,950,000	9,950,000	0.0%	9,950,000
		①国庫支出金	円						
		②県支出金	円						
		③地方債	円						
		④その他（使用料、雑入等）	円	2,700,000	2,700,000	2,700,000	2,700,000	0.0%	1,200,000
		⑤一般財源	円	7,250,000	7,250,000	7,250,000	7,250,000	0.0%	8,750,000
	人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人	1	1	1	1	0.0%	1
		②年間所要時間	時間	200	200	200	200	0.0%	200
		③人件費（②×@ 3,956 円）（B）	円	791,200	791,200	791,200	791,200	0.0%	791,200
	総	費用（A＋B）	円	10,741,200	10,741,200	10,741,200	10,741,200	0.0%	10,741,200

5 取組内容	令和5年度に取り組んだ事務事業の内容や事業費の主な内訳等								
	○シルバー人材センター運営に対する補助金を交付した。								

6 評価	評価の視点	R4評価	R5評価	評価結果の説明	個別評価の項目		個別評価の判定	
	妥当性	A	A	特に問題なし	① 自治体関与の妥当性	1	妥当である	
					② 目的の妥当性	1	妥当である	
					③ 対象の妥当性	1	妥当である	
	有効性	A	A	特に問題なし	① 目標達成度	1	高い	
					② 類似事業の有無	1	なし	
					③ 上位施策への貢献度	1	高い	
	効率性	B	B	進め方等の改善が必要	① コスト効率	2	普通	
					② 実施主体の適正化	1	適正である	
					③ 負担割合の適正化	1	適正である	
	結果 （課長総括）	A	A	現行どおり補助することが適当	不要			
	1 次評価	今後の方針	方針の説明等	高齢者の就業機会確保に果たすシルバー人材センターの役割は大きく、補助を継続することが必要である。		2 次評価		